

くりすたる

2009. 12

あ い さ つ

同窓会会長(14回卒) 河野 薫子

奈良女子大学は本年5月1日に創立100周年の佳節を祝いました。そして化学科同窓会も新時代に向けて、組織運営に大きな改革を迎えようとしています。そんな重要な時期に、年回りと言うだけの理由で、第10期同窓会長の重任を受けた私は、本当に恥ずかしいことですが、今まで、同窓会の基本的な仕組みも知らなかったのです。そこで、従来からの組織の概略と、今回の改革の要点を、順を追って述べさせていただきます。

①化学科同窓会は3年間を1期間とする。各学年から、クラス代表を1名選び、その人は3年間、自分のクラス(学年)の連絡係り等を行う。現在、化学科の卒業生は57回生まであり、57名のクラス代表が集まって、同窓会運営に当たるのは効率が悪いので、4学年のクラス代表のうち、輪番制で1名だけが、運営委員として、同窓会の仕事に携わる。仕事は3年間の任期に呼応して、3つあり、運営委員はそのどれかに配属される。今期の場合には以下の通りです。(57名÷4≒14名)

住所録係り	4名	
同窓会(総会)係り	6名	
会報誌(くりすたる)係り	4名	合計14名

真面目で優秀なスタッフのおかげで、今期(10期)も住所録発行・総会が滞りなく行われました。

しかし、運営委員のスタッフは3年ごとに入れ替わります。当然、継続性への懸念がありますのに、現在まで、完璧なまでに、化学科同窓会組織が維持できて来た

のは、奈良女子大学卒の歴代の諸先生方のおかげです。ご研究の時間をさいて、実質的な事務局の運営をこなして来て下さいました。

以上が今期まで続いた化学科同窓会の全体像です。

②ところが、中核にいて下さった諸先生方が次々と退職され、化学科教員に、卒業生がいなくなるという現実が控えています。そこで、次期(2010年～)から、おおよそ次のような改革を行うことになりました。(昨夏の総会で可決)

- 将来は化学科同窓会の事務局を大学外に置くことも視野に入れつつ、運営委員会を作り、実質的活動を継続して行う。
- 今後の方向性として、同窓会は卒業生だけでなく、教員と、お互いに協力し合うのが望ましい。
- 住所録発行は中止。その代わりにコピー不可のCD名簿を作成する。配布方法などは今後の検討課題とする。
- 会報誌「くりすたる」は簡便なニュースレター形式とし次期より、3年おきに行う総会案内に同封して、郵送。
- 会費は入会時に3000円徴収する。住所録・会報誌の発行形態の変更により、一般会費の徴収は検討課題とする。

最後になりましたが、今まで、化学科同窓会を支えて来て下さった、諸先生・同窓生の皆様に心より感謝申し上げます。

化学科教室から「次のミレニアムに向けて」

理学部化学科学科長 片岡 靖隆

平成21年度、化学科学科長を拝命しております片岡靖隆です。前号のくりすたるの発行が平成15年12月とのことですので、平成17年3月に赴任した私の名前が本誌に掲載されるのは初めてとなります。今後ともよろしく願います。

それでは、現在の化学科の組織について説明いたします。平成15年以降学科組織には変更がありません。しかし、学科内の構成員は大きく変わりました。皆さんの恩師である8名の先生が化学科を離れられました。平成16年3月に小川昭弥先生が大阪府立大学(教授)へ、平成18年3月

に加藤昌子先生が北海道大学(教授)へ、平成21年3月に小幡誠先生が山梨大学(助教)へ転出され、平成18年3月には久留島涼子先生、平成20年3月に池原健二先生、榮永義之先生、矢野重信先生、平成21年3月には阿部百合子先生が退職されました。一方、新たに加わったのは以下の7名です。平成17年3月には大阪大学から私、平成18年4月に東京理科大学から吉村倫一先生、平成19年4月に早稲田大学より中島隆行先生、平成20年1月には米国スクリプス研究所より浦康之先生、平成21年3月に京都大学福井謙一記念研究センターから太田靖人先生、平成21年4月に東北大学から梶原孝志先生、平成21年11月には九州大学未来化学創造センターから久禮文章先生が赴任されました。また、平成18年4月に岩井薫先生、平成20年4月に中沢隆先生、衣川健一先生が教授に、平成21年4月に高島弘先生が准教授に承認されました。その結果、現在(平成21年11月1日時点)の化学科は、教授8名、准教授7名、助教1名の16名で構成されています。なお、平成19年度から教員の職階の名称が変更され、皆さんの記憶にある教授、助教授、講師、助手という職階はそれぞれ教授、准教授、講師、助教へと変更されました。研究者としての独立性を重視した名称となり、助教は従来の助手とは異なり独立した研究者として認められた方のことを指します。

研究室の運営体制も大きく変わりました。以前は基幹化学講座と機能化学講座の二大講座制のもと助手以外の教官は全て独立し研究室を運営していました。現在でも二大講座の名前は残っており、各教員(法人化以前は教官と呼ばれていましたが法人化以後は教員と呼ばれるようになりました)が研究者として独立していることには違いありません。しかし、研究室に所属する学生、研究員の指導教育等は1つの教育研究分野に所属する複数の教員が協力連

携して担っていく方式になりました。現在の教育研究分野(括弧内はその教育研究分野を担当する教員名)は次の8分野です。

- 物性物理化学 (飯田雅康教授・吉村倫一准教授)
- 有機合成化学 (片岡靖隆教授・浦康之准教授)
- 理論物理化学 (衣川健一教授・太田靖人准教授)
- 生命有機化学 (中沢隆教授・三方裕司准教授)
- 機能性高分子化学 (岩井薫教授・竹内孝江准教授)
- 有機金属・錯体化学 (棚瀬知明教授・
中島隆之准教授・久禮文章助教)
- 生物無機化学 (塚原敬一教授・高島弘准教授)
- 機能性材料化学 (梶原孝志教授)

ここ最近本学は大きな2つの節目を越えました。1つは平成16年の法人化により呼び名が「国立大学法人奈良女子大学」と変わったこと、そして、2つ目は、本年5月に前身である奈良女子高等師範学校開学から数えて100年を迎えたことです。時代の流れとともに大学に求められるものが大きく変化しています。我々教員はその要求に応えつつ、次の時代の礎となる研究教育を進める必要があります。化学科の新しい研究教育体制はそのために作られました。昔の講座名がなくなり、同窓生の皆さんには自分の所属しておられた研究室が消え、まるで故郷を失ったかのような寂寥感を覚える方もいらっしゃるかもしれません。しかし、これも本学化学科の存在感を増し、これまで以上に必要とされる化学科になるには必要なことであるとご理解ください。皆さんが培ってきた大切な伝統や精神は消えることはありません。新たなミレニアムへのスタートをきった本学、そして、我々にご期待ください。



平成21年2月撮影

退職によせて

つれづれなるままに

久留島 涼子 (14回卒)



「つれづれなるままに日ぐらし、視に向ひて心に移り行くよしなしごとを、そこはかたなく書きつくれば、怪しうこそ物狂おしけれ」と吉田兼好さんも述べているのでできるだけ簡潔にそこはかたなく書いてみました。

40年間に渡る奈良女子大学、理学部化学科勤務を定年で退職して3年半になりつつあります。多くの方は定年後の仕事として、定年前の仕事の延長線上のことをさら継続して社会貢献に勤められるけれど、私の場合は勤務が終わった時点でこれから始めることは、化学でなく、条件として定年が無いこと、1人でもできることを始めたいと思いました。幸いその時点で生活には困らない状況であったので、そこで選んだのが「水彩画を描く」、「ゴルフで気分転換をはかる」、「コーラスで仲間と楽しむ」、「太極拳で基礎体力をつくる」でした。後の2つは佐保会の「佐保塾」に参加ということで始めたことです。それ以外にこれはや

むを得ずと言うことですが、佐保会の理事、大学女性協会奈良支部の支部長、奈良県男女共同参画県民会議の委員を引き受けています。この3年間に始めてもう既にやめたのがパソコン整備士の資格取得(3級は取得済み)と英語論文の抄録作成の仕事です。まがりなりにも続けられると言う事柄は、やっていて楽しいし3年続けると新たな「悟り」の段階を迎えることが出来てさらに楽しくなるという傾向にあります。生ある限り続けられたら私の後半生の宝となるかもしれません。これらのことを生活のイベントとして、日常は家族の生活や病気のケア、時々海外旅行を交えながら、平凡な日常を送っています。しかし平凡こそが何よりと思われまふ。深夜の緊急電話は最も忌むべきことの1つであります。

女子大での30年を振り返って

池原 健二



私は約30年前、創立記念日の昭和53年5月1日に奈良女子大学に赴任し、平成20年3月に定年退職した。初めて南通用門をくぐりC棟玄関前の大きな楠を見上げた時、これから始まる新たな生活に思いを馳せ、凜とした気持ちになったのを今でも鮮明に覚えている。

女子大での前半の15年間は、菅江謹一先生の下で、「枯草菌の孢子形成に関する研究」や「DNAとタンパク質(アミノ酸)との特異的結合に関する研究」などを行った。また、後半の15年間は、学生さんたちと見つけた枯草菌の低温ショックppGppを研究するために留学したことがきっかけとなった「大腸菌SpoTタンパク質の構造と機能に関する研究」、そして、独自の研究をとの学生時代からの思いもあって始めた「遺伝子や遺伝暗号、タンパク質の起源と進化に関するデータベースの解析を中心とした研究」などを行った。その結果、偶然にも助けられ、生命は、これまで言われているようにRNAワールドから生まれたのではな

く、擬似複製によって形成されたGly[G]、Ala[A]、Asp[D]およびVal[V]の4種のアミノ酸からなる[GADV]-タンパク質ワールドから生まれたとの独自の考え(「GADV仮説」：京都大学学術出版会)に到達することができた。

女子大での30年間の研究を振り返って今思うことは、校費のみの乏しい研究費の中で、結果として難しい研究を多くの学生さんたちに強いてしまわざるを得なかったことである。しかし、その状況の中で一緒に闘ってくれた素晴らしい多くの学生さん達のお陰もあって、定年後の今も奈良佐保短期大学の特任教授と並行して国際高等研究所のフェローとしての研究の場を与えられ、独自の考え(GADV仮説)をさらに深めるべく机に向かうことができている。そして、毎日を女子大での成果を基礎に研究を進めることのできる喜びに包まれながら過ごしている。

365連休の日々

榮永 義之



平成20年3月末に退職してから早くも1年4ヶ月が過ぎました。奈良女子大学にいたのが遠い昔のように感じられます。奈良のことを思い出すこともあまり無い日頃ですが、それでもTVニュースなどで奈良市の風景が出ると奈良女のキャンパスからどのくらいの所だったかなと思ったりもします。もう1年余りも奈良へは行っておりませんので、毎日通っていたのが嘘のようです。来年は遷都千三百年の行事がある筈ですので、一度は行こうと考えております。

私の住まっている近くに京都大学の工学研究科が移ってきておりますので、散歩とボケ封じを兼ねて時々旧知を訪ね、最近の研究などを聞いて刺激を受けております。最近は何処も実用志向で、町工場的な雰囲気になってきているようで困ったことです。(知り合いの所はそうではありませんが。)

退職してから昔を思い出して、かつてやってきたことをテキストに纏めています。今のところ3部が一応完成

しており、京都大学大学院工学研究科高分子化学教室の高分子分子論講座のホームページにあります書庫においても、インターネット上にアップロードしております。レオロジー関係が「高分子流変学」、高分子溶液関係が「高分子溶液熱力学」、もう一つが「光散乱講義ノート」です。いずれも大体150ページ程度で、PDFファイルになっていますので、興味のある方がおられればダウンロードして読んでみてください。http://www.molsci.polym.

kyoto-u.ac.jp/archive.htmlへ直接アクセスするか、あるいはgoogleなどで上記の書名を検索して頂くとでてくると思います。

私は365連休の日々ですが、現役の皆様方はご多忙な毎日と思います。ご同情申し上げます。それと併せて奈良女子大学理学部化学科の卒業生の皆様がそれぞれの場所でますますご活躍されることを期待しております。

錯体化学から錯体工学へのイノベーション

京都大学産官学連携センター寄附研究部門
フォトメディカルサイエンス

矢野 重信



“くりすたる”への寄稿のお誘いを頂き有難うございます。御礼かたがた近況報告をさせていただきます。私は、昭和47年3月に東北大学大学院理学研究科博士課程を修了し、同年11月に東京大学工学部合成化学科に助手として赴任、その後、東京大学工学部講師、同助教授を経て、昭和63年9月に、奈良女子大学理学部教授としてお招きいただき、平成11年から平成20年3月まで奈良女子大学大学院人間文化研究科機能性科学講座教授として、合わせて40年近く錯体化学、生物無機化学の研究・教育に携わってまいりました。この間、興味の趣くままに研究生生活を過ごせたことを有難く思っております。特に、専攻長、評議員、研究科長をおおせつかった折に、学内外の魅力的な皆様と親しく知り合う貴重な機会をいただけたことは、今後の大きな財産となるものと感謝しています。奈良女子大学へ赴任後、これまでの研究生生活を支えていただいた皆様に少しでも現実的にお返しできればと表題のように考えるようになりました。そして、同好の士とともに、平成3年に「基礎錯体工学研究会（現 先端錯体工学研究会）」

を設立しました。

平成20年3月末日をもちまして、セクハラならびにアカハラにかかわることも無く、無事に奈良女子大学を卒業いたしました！？ 幸い健康にも恵まれ、平成20年4月から京都大学客員教授として、京都大学産官学連携センター（桂キャンパス）の寄附研究部門「フォトメディカルサイエンス」を主宰させていただき、錯体工学の概念のもとに先端光医療の応用研究をスタートしました。

日頃、次のようなモットーで研究教育生活を送ってきました。

「人生を楽しくアクティブに！」「いつか晴れた青空！」
「やめないのが青春！」

志を同じくする皆様方の風光明媚な桂へのご来訪を、ビール&ワインを冷やして心からお待ちしております！！

最後になりましたが、奈良女子大学化学同窓会の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念して筆を置かせていただきます。

奈良女子大学での40年余の「研究と教育」を振り返って

阿部 百合子（16回卒）



今年の3月末日で奈良女子大学を定年退職致しました。大学、大学院、引き続き教員として奈良女子大学にお世話になり、1年間アメリカのプリンストン大学へ留学をさせて頂いた以外は母校で過ごしました。2009年の5月に創立100周年を迎えましたが、40年近くを母校で過ごし、本学で研究・教育に携わってきたこととなります。

研究領域は錯体化学の分野ですが、おおまかにアメリカ留学前と後に分けることが出来ます。留学前は溶液内の錯体化学の反応性や反応機構に主眼点をおいた研究をしました。水を含めた普通の溶媒中では溶媒和した金属イオンは八面体型をとっていますが、HMPAというかさ高い分子の溶媒中では四面体構造をとります。それまで、系統的に四面体型錯体の反応性と反応機構の研究が報告されていなかったため、HMPAは願ってもない溶媒でした。アメリカでの研究は、ほうれん草から光合成光中心PSIIに含まれる4核Mnクラスターを取り除き、再びMn²⁺を添加し光照射すると酸素が発生しますが、それに及ぼすアルカリ金属イオンの効果から反応機構を検討しました。帰国後、

共生科学研究センターの兼任教員になったこともあり、研究の重点が錯体の機能性にシフトし、Mn錯体の機能性、PSIIに含まれる2分子膜等の類似錯体の合成と反応性・機能性に関する研究を行いました。21世紀に予想される地球温暖化、エネルギー問題、食料問題の解決の糸口として人工光合成があげられ、現在、様々な方法で研究が進められています。光合成PSIIをモデルとしたMn錯体を合成し、酸素発生系の構築、それを無機—有機ハイブリッド多層膜に応用してその機能化を試みました。これらの成果は論文や日本化学会等の学会で発表しました。

定年を無事に迎えられるのも、真摯に研究に取り組んだ卒業生、共同研究者、化学教室の先生方をはじめお世話になった多くの皆様のご協力の賜物と感謝しております。

最後になりましたが、母校に残っている卒業生は竹内先生のみとなり、同窓会活動の見直しが必要な時期にきております。今後の同窓会活動に対し、化学科の先生方をはじめ同窓生の皆様の一層のご協力をお願い致します。

新任先生の紹介

はじめまして

大学院人間文化研究科 吉村 倫一

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平成18年4月1日付けで、奈良女子大学大学院人間文化研究科共生自然科学専攻（理学部化学科兼担）に准教授として着任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。長い歴史と伝統を有する奈良女子大学の一員として、教育と研究に携わる環境を与えていただき、心より感謝しています。



研究の専門分野は、コロイド・界面化学で、主に界面活性剤の溶液物性、水溶液中での会合体特性、金属微粒子の調製、両親媒性 dendrimer を用いたバイオマテリアルの創製に関する研究に取り組んでいます。4年目の現在、大学院生3名を含む6名の研究室の学生とともに、アクティブな研究を目指して日々頑張っています。

これからもチャレンジ精神を忘れることなく、自身の専門性を広めながら、本学の発展に貢献できるように職責を果たしていく所存です。ご指導ご鞭撻の程宜しく申し上げます。

ご挨拶

理学部化学科 浦 康之

2008年の年初に奈良女子大学に着任以来、早くも2年近くが経とうとしています。以前はアメリカ・カリフォルニア州南端の海岸沿いの都市ラホヤにある研究所で博士研究員をしており、そこから奈良に移って来ましたのであらゆる点において環境が一変しましたが、今では賑わいと静けさが同居するこの古都と本学の雰囲気にすっかり馴染んでまいりました。



現在は環境負荷の低い有機合成触媒反応、特に遷移金属錯体触媒を用いた反応の開発に携わっており、長期的観点に立脚して研究を進めることによって持続的社会的構築に微力ながら貢献したいと考えています。

勤勉で澁刺とした学生達から日々新たな刺激をもらいながら、充実した毎日を過ごしております。

ご挨拶

理学部化学科 中島 隆行

私が化学科に赴任して早いもので2年余りが過ぎました。私は千葉県佐倉市の生まれで、長嶋茂雄元巨人軍監督と同郷で中学も同じだったこともあり、奈良では肩身が狭いのですが、小さい頃からずっと巨人ファンです。私自身も高校の途中で肘を痛めるまで野球をやっていました。



奈良に移ってからは地の利を活かして奈良・京都にある仏閣巡りや近県への旅行を時間を見つけてはしています。

ところで私の研究の専門分野は有機金属化学、錯体化学です。化学科では錯体化学に関連される研究をされる先生が多く、化学科の特徴にもなっておりますが、私は一つの分子中に複数の金属を有する化合物である多核錯体の合成研究や物性開発を目的としています。現在、棚瀬知明教授や14名の学生（博士課程1名、修士課程9名、学部生4名）と共に日々研究活動を行っています。最後に、歴史ある化学科の発展のために努力すると共に、有為な女性人材の育成のため、教育や研究指導を行っていきたいと考えております。

着任のご挨拶

理学部化学科 太田 靖人

3月1日付で理学部化学科准教授に着任しました太田です。金沢大学では主にレーザーによる化学反応制御の理論的研究に携わっていました。その後、東北大学では電子の時間発展をあらわに取り扱う量子動力学計算法の開発、産業技術総合研究所関西センター（大阪）では原子核の波動的な性質を考慮した分子シミュレーション法の開発、アメリカのペンシルバニア州立大学では凝縮系での水素移動反応速度論に関する理論的研究、京都大学福井謙一記念研究センターではカーボンナノチューブの成長シミュレーションなどに取り組んできました。行く先々で研究テーマや環境、研究スタイルが全く異なり、時には戸惑うこともありましたが、私自身の視野を広げる大変貴重な経験となりました。



今後の研究分野としては、多分子系の自己組織化過程のダイナミクスや新しい分子動力学計算法の開発に興味があります。これまで培ってきた経験を研究や教育に活かし、奈良女子大学を盛り上げていきたいと思っております。今後ともどうかご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

同窓生だより

昭和31年卒の近況報告

4回卒 今本 桂子

卒業してから53年が経ちました。今回初めて奈良を離れての同窓会をこの4月12日に富士山の麓にある休暇村で実施しました。当日身延線富士宮駅前の休暇村行きのバス停に関東・関西勢クラス11名中7名が集まりました。各人53年間の年月を刻んだ後期高齢者になっていましたが、あつという間に卒業時の青春一杯の表情に戻り会話がはずみました。休暇村に近づくにつれ雪を頂いた富士山の全容が現われ、更に高揚した気分で休暇村に到着しました。夕食迄のひととき余力のある者はホテルの眼前に広が

る田貫湖のほつりを散策し、清澄な空気を吸い心身共にリラックスしました。翌日も天候に恵まれ裾野に広がる墓地公園や史蹟めぐり、白糸の滝等を訪れました。満開の桜が更に気分を浮きたたせてくれました。この2日間は身体的には高齢者の集りでしたが長い年月が経過しているにもかかわらず、あの旧校舎での実験・講義・セミナー等を共有した者の連帯感をひしひしと感ずることができました。帰りの富士宮のバス停に着いた時、全員一致で来年も又集まる事を約束し解散しました。

くりすたるの友へのエール

6回卒より

「くりすたる」と我らが友のさらなる輝きを期し、いま人生の歩み70余年を数える6回生11人からのエールを「一言」に託しました。先に旅立った同期の2人を偲びつつ・・・

- 少人数の女子大で共学校に比べてまとまりやすく、奈良という環境もよい。学究や人間形成の力になる利点です。

芦屋市 松木 節子

- 卒業後50余年、化学科で学んだ最大の収穫は、半世紀付き合えた12名の友人を得たことです。

泉南市 萱村 和子

- 岡 潔のいう創造の母である情緒を、この時代だからこそ意識して大事にしてください。

神戸市 小山 章子

- “未見の我を発見せよ”という言葉に、高校時代に会いました。前向きに背中を押してくれます。

京都府 岡本 登美

- 人との出会いを大切に。出会った人々から沢山のことを学ばせていただきました。

観音寺市 藤田 義美

- 一回きりの貴方の人生をお大事に。世界の全ての人が、一回きりの人生だと言うことにも思いを馳せて。

東京都 岩佐 霽子

- 健やかに 穏やかに そして楽しく、つねにプラス思考でがんばりましょう。

長崎市 倉岡 弘子

- 軍国主義教育、世界大戦、疎開、敗戦、占領、引揚げ、戦後の貧困、飢餓、と多くを体験した世代です。平和の大切さを痛感しています。

奈良市 河崎 美代子

- 生命科学とグリーンイノベーションは世紀の期待。人類の幸せに奈良の力を生かしたい。

高松市 森 久美子

- 奈良で青春の四年を過ごしたことは、私の貴重な財産です。良い友達をつくってください。

宝塚市 仲江 道子

- 「私と小鳥と鈴と」(金子みすず)の、“みんながって、みんないい”。他を認め、個を伸ばしましょう。

吹田市 今井 和子

クラス会

10回卒 芝 泰子

卒業47年、人生の折り返し点はとっくに過ぎ、両親を見送った者も多く、自分たちの楽しみのために時間を使うことができるようになりました。それでというわけでもありませんが、クラス会を九州は宮崎でしました。近畿圏の外に出たのは初めてです。3月10日は夕食会、11日は日南海岸と城下町飴肥(おび)への小観光です。日南海岸は堀切峠・青島・鶴戸神宮(ここは海岸の洞窟に社殿があります)で海の景色を堪能です。太平洋の向こうはアメリカという、水平線の拡がり、風もなく、山桜も咲き一足早い春でした。ジャンボタクシーでの移動の道中は私たち8名のみでしたから、心おきなくお喋りも楽しみました。そし

て、今回参加できなかった方々とも次には会えますようにと願って、別れたのです。私の住む街へ来てくださってありがとうございました。嬉しく感謝です。

クラスのお世話をいつもしてくださっていた、坂田俊子さんが、2007年2月急逝されました。ご冥福をお祈りします。



「クラス会」飴肥城資料館前にて

沖縄の化学反応

15回卒 仲田 丸子

沖縄に仮の住いを得て三年になる。俯角から仰角へと視観の変化する中で、沖縄の歴史文化・芸術芸能・自然・人々の暮らし振り等に魂の甦るような力を感じている。

「人生如何に生きべきか」という命題に対して「化学」からの探究を選択して以降も、同値に全ゆる道程を模索する年月であった。

命の源、人間の原点への光が見えたこの地で、数度の個展開催、民話創作、瞳の空や海よりも輝く子供たちへの指導、戦争を経て来た方々の重き聴き書きなど、身に余る業を得ている。

今年も「慰霊の日」を迎えた。戦場となった地、基地が現存し、「戦中」は続いている感がある。四百年前の薩摩侵攻以来の酷しい歴史を経て、人々の「ナンクルナイサ」

という生き方は育まれた。大きな優しさの底には赤きマグマが燃えている。それを表現したく個展とした。人生観を変え、肩の力を抜いてくれたこの地・人々への感謝の気持は深まるばかりである。

宇宙誕生以来、ミクロの化学反応からマクロまで激しく緩やかに破壊と進化を遂げてきたこの世界、沖縄も又、コバルトブルーな海や空、白き砂浜、貴重な生物、そして人々の全てに根を同じくする独自の反応、繋がるものがある。この稀有な命の連鎖を認識し、堅固なものとして未来へ存続させるべき責任を謙虚に感じている。

東京に戻る日も近い。沖縄の化学反応の行方を畏敬と親愛の念を持って熟視して行きたい。

30周年記念同窓会

26回卒 梅村 晃子

昨年、恒例の卒業30周年記念同窓会では、恩師の先生方同窓生200名余が奈良ホテルに集い、和やかで楽しいひと時が送れました。音楽部や有志のリードで女高師の校歌を斉唱。日頃打ち込んでいる“何か”を展示する事もしました。情熱を込めたであろう子育ての時期もすぎ、静かに昔を懐かしむようになってくる“卒業後30年”を選んでくださった先輩方に本当に感謝です！そして記念館・佐保会館・小倉先輩の「爛漫」の緞帳（講堂）・素敵になった寮の見学も大変好評で、受付をした私達実行委員の汗も嬉しい汗となりました。

今、民生・児童委員として地域住民との関りや研修で得

た様々な経験により40歳代と大きく変わりつつある“私”を感じておりますが、佐保会報でも紹介されていましてサムエル・ウルマンの「青春の詞」を心に留め、50周年記念同窓会まで《美しさや喜びを感じ取り、挑戦する心や探究心を抱き、理想を失う事なく、希望を持って》若々しく生きたいと思います。



20年ぶりの大学生活

34回卒 月川 明野

7年前思うところあって16年勤めた会社を退社し、教育の勉強がしたくて神戸大学発達科学部の3年次に入学した。「20年ぶりの大学生生活」である。

はじめは、文系でやっていけるのか、90分の講義に耐えるのか不安もあった。しかし、それは杞憂であった。驚いたことに、どんな講義も面白いのである。毎日のように「へえ！そうだったのか」という新鮮な驚きがあった。

それではまるで、20年前奈良女子大学理学部化学教室でお世話になった先生方の講義が面白くなかったかのようではないか、というむきもあるだろうが、「そうではない」ことをここでお断りしておきたい。

いったい何が違うのかというと、ひとことで言うなら、私自身の知的感性である。残念ながら、20年前の私には、大学で教授されたさまざまな叡智に対し、「面白い」と感じる知的感性が著しく欠如していた。つまり、当時の私は、大学で学ぶに値しない知的レベルだったというわけである。なんともったいないことであったか、と今さらながらに後悔の念に苛まれる。と、同時に、講義の間中睡眠または携帯メールに勤しむ周囲の若者たちに対して「君たち、大学に来るのは20年早いよ」と心の中で呟くのである。

知財を通して触れた中国

38回卒 松尾 三紀子

1992年の春に入社後十年間、材料技術を中心とした技術開発に携わりました。有機合成や分子軌道計算からガラス細工・パソコン操作に至るまで、「何でも経験しておくこっちゃ！」という山本正夫先生のご指導に感謝する毎日

でした。その後知財へ転向し、当初は日本国特許法をOJTで学びつつ、米国特許法を輪講形式で職場のメンバーと学び合いました。そして二年後、特許ライセンス交渉デビューの日が巡ってきたのです。相手会社は中国のメー

カーでした。訪問地は深圳経済特区、発展目覚ましい都市でした。交渉は米国特許をベースに行われました。当初は敵対的だった相手も、リーダーの能力と人柄が功を奏して交渉はまとまりました。交渉メンバーにも恵まれ、交渉の

進め方や考え方を学ぶ良い機会になりました。現在はライセンス交渉の経験を活かすべくR&D部門の知財に携わっています。あのエネルギッシュな中国を、中国の人たちを思い出せば、奮起せねば!と思う毎日です。加油!!

シンプルでナチュラルな生き方を目指して

42回卒 中森 早紀

食べることで、自己免疫力が高まり、インフルエンザや風邪の予防、花粉症、アレルギー、アトピー等にも効果があり、ダイエットにもなる—そんな食事があれば良いと思いませんか?それが、現在注目されている玄米菜食と言われる自然食です。でもよく考えてみれば、日本人の昔ながらのシンプルな食事なのです。

飽食の時代において、何を食べるのかは自分の選択です。食べることに無頓着な人がとても多い現在ですが、食べる事は命をつなぐもので、心にも作用してきます。自然の恵みに溢れたものを感謝して頂く。その心が、生き方にも影響を与えると思うのです。私は、美味しく食べて健康になり心も豊かになる自然食をもっと多くの方に知ってもらいたいという思いから、2009年8月にお料理教室「サロン

マリーゴールド」を開設しました。食べる事を通じて人々の心と身体を輝かせることが出来たらと思っています。ご興味のある方はぜひ一度覗きにきて下さい。

サロンマリーゴールド

(宝塚市中筋山手 salon.marigold@w3.dion.ne.jp)



ピンチョス



高野豆腐のはさみ揚げ

動物性食品、卵、乳製品、砂糖は使っていません。

社会人4年目

54回卒 北野 美穂

化学科を卒業し、就職した人は社会人4年目で仕事を任されるようになり、私を含め修士に進学した人は2年目で仕事に慣れだんだんと面白さがわかってきた頃だと思えます。残念ながら、卒業後は出身地に戻ったり、関東勤務であったり、個別に会うことはあってもだんだんと疎遠になってきています。異業種交流もかねて一度同窓会をしてみたいなと思えます。

「くりすたる」に掲載されるというので、大学時代の思い出を掘り起すため教科書を開いてみました。しばらく本棚

から触られていない無機化学を手に取り、こんなに重みがあったのかと再確認しました。やはり2年も経つと忘れてしまっていることばかりでした。しかし私が宿題でd起動の図を書いていたのを見た母親が「あんたチョウチョウの絵書いての?」と言われ、懇々と説明したことは鮮明に覚えています。

初秋は学会の季節で、学生時代はデータ整理や発表準備に終わっていましたが、どれもすばらしい青春時代でした。

< あ と が き >

冊子から今回11号よりニュースレター形式になり、今までの「くりすたる」を心待ちにしていた諸先輩方には物足りないかも知れませんが、いかがでしょうか? お忙しい中、原稿を書いてくださった先生方、同窓生のみなさん、ありがとうございました。最後になりましたが、発行に際して阿部先生、竹内先生にお世話になりました。編集委員一同、感謝しています。

前回より「くりすたる」は有料となっています。今回は1部印刷・送料等込みで500円です。振込用紙を同封しますので、ご協力をお願いします。

くりすたる編集委員

26回卒 山本 真樹子

編集委員をお引受けするにあたり、今までの「くりすたる」を開いてみると同じ学舎で学ぶことができた皆様との距離が一気に縮まり懐かしい思いでした。今回から形式は変わりましたが、同じような思いで皆様の傍に置いて頂けると嬉しいです。

30回卒 萩山 和代

この6年間で先生方の定年退職、そして着任の多さにびっくりしました。国立大学法人になり、改めて大学が変わってきていることに気づきました。先生方は本当にお忙しいそうです。

次は皆さんが興味を持って見て頂ける様な企画なども取り入れていけたら、と思っています。

42回卒 紺谷 佳代子

原稿を集める過程で、同級生や同窓生の皆さんの近況に触れ、専業主婦として日々育児に没頭する自分自身を客観的に見ることができました。卒業してそれぞれ歩む道は異なっていますが、同じ学び舎で青春を過ごした皆さんに元気をいただき、また新鮮な気持ちで自らの生活を前向きに頑張ろうと思えました。

46回卒 池戸 美加

今回、編集を進めるにあたって、世代を超えてたくさんの先輩方にご協力頂きました。卒業されてからもお仕事・家事・趣味などにご活躍のみなさんの近況をお聞きし、私自身も励まされました。